2008年5月14日

JACET-Chubu Newsletter

大学英語教育学会中部支部　No. 20

ぜひ 25 周年記念大会にご参加を

支部長　塩澤　正　（中部大学）

今年の JACET 中部支部大会は二つの意味で記念すべき大会となります。一つは JACET 中部支部が設立されて、今年が 25 周年にあたり、この大会が 25 周年記念大会となるからです。これを祝って森住衛会長も駆けつけてくださることになりました。また、記念行事の一つとして記念論文集を発行することになっております。6 月 14 日の大会当日に会場で配布したいと思います。もう一つはこの大会がはじめての JALT（全国語学教育学会）の中部地区 3 支部（名古屋支部、豊橋支部、岐阜支部）との合同研究大会となるからです。2 つの学会が「英語教育におけるシナジー効果を求めて」のテーマのともに、まさに協力・協調して大きなシナジー効果が発揮される大会になるものと思っています。研究発表、講演、シンポジウム、ワークショップなどは合わせると約 30 件となり、参加者数も普段の 1.5 倍～ 2 倍近くになることが予想されます。多くの発表が英語で行われますので、ネイティブスピーカーの方々の参加者も目を見張って多くなるでしょう。日本の出版社以外にも、ケンブリッジ出版やオックスフォード出版なども書籍の展示・販売を行います。新しい企画として、発表の合間にコーヒーブレイクも入れて、会員相互の交流が図れるように配慮しました。支部大会ですが、さながら「国際学会」を彷彿させる研究大会になるでしょう。日々の研究や授業でお忙しいとは思いますが、会員の皆様には、万障お繰り合わせのうえ、この記念すべき大会にぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。

目　次

ぜひ25周年記念大会にご参加を　塩澤　正　1頁
国際語用論学会報告　堀　素子　1頁
研究会活動報告
言語アセスメント研究会　小宮富子　2頁
講演会報告1
西口光一氏　佐藤雄大　3頁
講演会報告2
大石晴美氏　小宮富子　4頁
会員著書紹介
『脳科学からの第二言語習得論』　石川有香　4頁
会員フォーラム
The Elvish Languages　大森裕實　5頁
‘Go to school’の怪　下内　充　6頁
CyberSpace
「英字新聞ニュース・アーカイブの利用」　石川有香　7頁
掲示板　事務局　8頁
事務局より　岡戸浩子　8頁

国際語用論学会(10th International Pragmatics Conference)報告

堀　素子　（待遇表現研究会代表・執筆当時）

この学会は通称 IPrA（イプラ）と呼ばれていて大体ヨーロッパを中心に 3 年ごとに開催されている。日本でも 1993 年に神戸で開催されて以来会員が増え、今回も日本人研究者が大勢出席していた。私ども待遇表現研究会のメンバーは 5 人（津田早苗・村田泰美・重光由加・大谷麻美・私）が出席し、Intercultural Communication between Native and Non-native Speakers: Japanese and English Conversation Management というテー

マでパネル発表をした。(内容の一部はすでに支部研究会で村田と重光が発表した。)

今年はスウェーデン第二の都市イエーテボリ(またの日本名ヨーテボリ)で7月8日から13日まで6日間開催された。北欧なので涼しいだろうとは思っていたものの会期中は連日雨模様の寒いほどの天候で、ようやく太陽が顔を見せたのは最後の2日間だけであった。

イエーテボリはスウェーデン南西部の港町で、海の向こうにはデンマークの北端が見える位置にある。国全体でも人口は900万ほどなので、第二の都市とはいうものの賑やかというよりは落ち着いた雰囲気の街である。学会中の各セッションはイエーテボリ大学内の教室で、基調講演など全体会議は市のコンサート・ホールで開かれた。アブストラクトによればちょうど1000名の出席者ということになるが、実際それにほぼ近い数の研究者が集まったと思われる。19の教室で毎日午前と午後、コーヒーブレイクを挟んで4回のセッションがパネルも個別の研究発表も同時進行で行われた。そのため出席できるセッションの数が限られ出席者全員の顔を見る機会もあまりなかった。

一番記憶に残ったイベントは古城でのバイキング・ディナーであった。海上を2時間ほど船に揺られて小さな島に行き、海賊の船長とその子分に扮した案内人に従って頂上の古城まで歩く。らせん階段をぐるぐる登って着いたところはまさに中世の城の宴会場。テーブルに置かれたろうそくの灯をたよりにでかい肉塊を自分で切り裂きながら食べる。当時の彼らもこのように狩の獲物を分配しながら祝宴をしたのかと感無量であった。研究発表の中で記憶に残ったのは、フィンランドの研究者によるbutとandの会話中での機能である。英語ではbutは完全にcounter-argumentsの冒頭に、andは自分も他者も含めてcontinuationの冒頭に来る。しかしフィンランドとスウェーデンの合弁会社で英語で行われた会議では、butがturn-takingやextension deviceとして使われたという。彼女の過去の研究でもbutが完全にcounter-argumentsの冒頭に使われるのは52.5%で、その他の機能が半分近くを占める。これを聞いて私は日本語の助詞の「ガ」を思い出した。英語ではこれをすべてbutにすることはできず、むしろandにした方が続き具合がよいことが多い。もしかするとフィンランド語と日本語とはウラル・アルタイ系言語群の両端で語用論的に類似したものを持っているのかな、と夢のような想像をしてみた。

[この報告は前号(2007年11月19日発行)掲載予定の記事でしたが編集担当者の手違いで掲載が遅れました。堀先生始め関係者の方々にはお詫び申し上げます。]

研究会活動報告

言語アセスメント研究会

本年4月から言語アセスメント研究会が中部支部内に発足しました。昨年12月の日本「アジア英語」学会秋期大会への参加者が中心となってできた研究会であり、中部圏のみでなく、京都・秋田・宮崎在住の会員も含まれています。

言語アセスメントとは、「政府・自治体・企業・教育機関・公共施設・地域コミュニティー・その他の多様な組織やその活動における、言語対応の現状とニーズを分析評価し、ニーズにより適合した言語対応策を具体的に提案することにより、言語に起因する複合的な問題に向き合い、その改善をめざそうとする社会言語学的視点に立つ活動および研究」であると、我々は捉えています。つまり、様々な社会場面の中で、個別の言語ニーズに応じた言語対応がどの程度なされているかに関する「アセスメント」を行い、ニーズ対応への具体的な方策の提案を試みようとするものです。

このような研究は1990年代から'Linguistic Auditing'や'Needs Analysis'という形で欧米を中心に生じてきたものですが、日本では青山学院大学総合研究所での研究活動などが見られるものの、まだ始動の段階であるといえます。「言語アセスメント」は現代の多言語・多

文化社会のさまざまな側面に適用可能な概念ですが、高等教育における英語授業のあり方を再検討する上においても、教育改善のための有効な切り口となりうるものと思われます。本研究会では、言語アセスメントの理論と実践方法を研究するとともに、英語教育への応用可能性とその有効性についての考察を行っていきたいと考えています。

発足したばかりの研究会ですが、9月のJACET全国大会では「グローバル化時代における言語アセスメントの意義」と題するシンポジウムを予定しています。言語アセスメントの観点から、日本の観光地の事例や諸外国（インド・ニュージーランドなど）の言語事情・言語政策などを取り上げるとともに、言語アセスメントの意義と日本の英語教育への示唆についての提案を行います。

小宮富子（研究会代表・岡崎女子短期大学）

講演会報告1

「第二言語の習得と習得支援
— 社会文化的アプローチの視点」
西口光一氏（大阪大学）
2007年12月15日
（中部大学名古屋キャンパス）

西口氏は大阪大学留学生センターにおいて日本語教育に従事する一方、日本ではまだ数少ない社会文化理論あるいはヴィゴツキー・バフチン的アプローチで言語教育の分析を行う日本語教育研究者である。これらの教育・研究活動を背景として今回の講演で西口氏がテーマとしたのは、教室内での言語活動をどのように捉えるべきか、という問題だった。

氏ははじめに近年の日本語教育で学習者が実用的な言葉のレパートリーを教室内で習得し、実際のコミュニケーション場面でそのレパートリーを「再現する」ことを目標とした教育が多く行われている現状を紹介した。

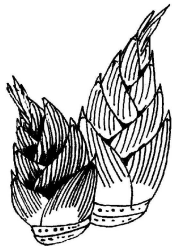
西口氏はこのアプローチでは教師が「ファシリテータ」に徹してしまうことが多いことに疑問を感じ、教師は「ファシリテータ」として授業を構成するだけでよいのか、あるいはそもそもこのようなコミュニケーション場面で再現できる「レパートリー」を増やすことが本当に学習者の言語能力を高めることとなるのか、という問いを投げかけた。このことは英語教育においても「コミュニケーション」重視の中、同様の議論があるものである。

この問いに対して西口氏は学習者の表面に現れる語学力ではなく、学習者の潜在的能力（氏はこのことを「言語的動員の潜在性」と呼んでいた）こそ教室内活動で高める必要があることを述べ、このことをレフ・ヴィゴツキーの「最近接発達の領域」（Zone of Proximal Development）を用いて理論的に解説した。

「いかにして学習者の潜在的能力を引き上げるか」は英語教育関係者にとっても関心事であり、そのポイントについて西口氏は「学習者が能動的に取り組める課題」と「教師が学習支援者として積極的に学習に関与していく」ことを挙げていた。具体例として氏は自らのShow and Tellの実践を紹介したが、その中で教師が積極的に学習者と関わり「学習者」「教師」「教材」の相互行為の促進を目指す授業を見ることができ、大いに参考になった。

英語、日本語という言語の違いはあるものの、同じ「言葉」を教える現場を持ちながら英語教育と日本語教育の交流はそれほど多くない。今回の西口氏の講演を聞き、日本語教育の問題は英語教育の問題と想像以上に共通していることを知り、この講演が日頃の授業を客観的に見直す良い機会になったと感じた。

佐藤雄大（名古屋外国語大学・非）



講演会報告２

「効率的な英語教授法の模索：光トポグラフィによる脳科学からのこころみ」
大石晴美氏(岐阜聖徳学園大学)
2008 年 3 月 8 日
(中部大学名古屋キャンパス)

興味深い講演を聴くと、その日一日充実した気分になるものだが、3 月 8 日に開かれた定例研究会での大石晴美先生のお話は、いまだに私の頭の中でグルグルと周り続けている。「効率的な英語教授法の模索：光トポグラフィによる脳科学からのこころみ」と題する講演であり、第 2 言語習得と脳内活性状態の関係を取り上げたものであった。

脳科学の進歩や、光トポグラフィという脳血流量測定機器の開発という技術進歩を背景に、第 2 言語習得における学習者の「意識・注意」の変化を数値的に捉える研究を氏は継続されている。授業中に学生がきちんと「学習」しているのかどうか、これまでは受講態度やアンケートなどでしか判断できなかったわけだが、左脳の言語野における血流量によって数値的に判断しうるという点が画期的である。血流量の型には、①「無活性型」②「過剰活性型」③「選択的活性型」④「自動活性型」があるとのことであり、例えば英語リスニングにおいてまったく「聴く気のない」学生は①、「わからないながらも必死で聴いている」学生は②、「かなり理解しつつ聴いている」学生は③、完全に理解できているネイティヴなどは④の状態にあるという。学習進度と血流量は反比例するという仮説に対し、実際は、学習進度に対し血流量の変化が放物線を描き、学習前と習得後に同様の血流量を示したという点が興味深い。また、③の型を示す場合にかなり有効な学習が行われていると考えうるのだそうだ。

英文読解トレーニングと血流量の関係の調査を行い、英語教授法への応用可能性を探る試みもされているとのことであり、今後の研究の進展に大いに期待を抱かせる講演であった。また、講演後の懇親会で、①と②の間に、③の「選択的活性型」と数値的には近くても意味の異なる別の活性型があるのではないかという筆者の疑問に対し、「迷路的活性型」を加えうるかもしれないとのお返事であった。

小宮富子(岡崎女子短期大学)

会員著書紹介

大石晴美著
『脳科学からの第二言語習得論
―英語学習と教授法開発―』
昭和堂　2006 年　254 頁

人体を傷つけることなく、活動中の脳の状態を測定する技術が進み、かつては Black Box とされてきた人

成 美 堂 2008 年 新刊テキストのご案内

Gillian Flaherty, 坂本政子　総合教材・ディベート
For and Against ……2,310 円(税込)
石井，山口，松村, Koch, Burrows　総合教材・経済英語
Global Transformation ……1,890 円(税込)
Ian Bowring, Ruth Urbom　総合教材・科学
Our Unique Planet ……1,890 円(税込)
Shawn M. Clankie, 小林敏彦　総合教材・環境・健康
Our Sacred Health and Environment ……1,995 円(税込)
Casey Malarcher, 森田 彰, 原田慎一　総合教材・速読
Advanced Faster Reading ……1,785 円(税込)
和久 豊, Bill Benfield　総合教材・日米人物
Across the Pacific Ocean ……1,890 円(税込)
渡辺幸俊, 岩崎光洋, 伊藤由紀子, Cuong Huynh　DVD 教材・ニュース
CBS News Flash on DVD ……2,415 円(税込)
Berman, Bratton, 早坂, 赤塚　リスニング副教材・TOEIC®
Mystery Box: Listening for the New TOEIC® Test ‥945 円(税込)
杉田由仁, Richard R. Caraker　英作文
Primary Course on Paragraph Writing ……1,995 円(税込)
北山長貴, M. Yamanaka, 福井慶一郎　英文法
Mastering Basic English Grammar ……1,890 円(税込)

大月 実　時事英語
News for You -2008/2009 Edition- ……1,890 円(税込)
大橋久利, BAXTER, Blake　リーディング・民族・結婚・社会
Ther Changing Face of Marriage and Family …1,995 円(税込)
Paul Stapleton, 大野公裕　リーディング・社会問題
What Globalization Really Means ……1,365 円(税込)
Anthony Sellick, John Barton, 小笠原亜衣　リーディング・社会問題
Pathways to Knowledge ……1,890 円(税込)
吉塚 弘　TOEIC®・総合教材
The TOEIC® Test Practice with Core Vocabulary Book 1 ……2,100 円(税込)
西谷恒志　TOEIC®・単語集
The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC® Test …1,785 円(税込)
石井，山口，馬渡, Eidswick, Koch　TOEIC®・総合教材
Complete Tactics for the TOEIC® Test ……2,100 円(税込)

株式会社 成 美 堂 SEIBIDO
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
URL https://www.seibido.co.jp　e-mail: seibido@seibido.co.jp

の学習過程も、薄いベールをはぐように、次々と明らかにされてきている。現在、脳科学関連の著作が書棚に溢れているが、本書が、他と一線を画しているのは、第二言語習得理論を踏まえて実験が行われており、結果の分析・解析も、英語教育の立場から、英語教授法・英語教材の開発を視野に入れつつ行われているという点である。

本書は 10 章から構成されており、第 1 章「ことばはどのように習得されるのか」、第 2 章「言語習得における注意の役割」、第 3 章「言語理解のメカニズム」、第 4 章「言語とワーキングメモリー」では、言語処理の自動化と学習者の選択的注意の関係を中心に、既存の学習モデルを概観し、またそれらの問題点を指摘している。

第 5 章「言語と脳」と第 6 章「光トポグラフィで脳を見る」では、脳内言語情報処理機能が、最新のテクノロジーを用いた脳機能画像法によって、徐々に明らかにされていることが紹介され、外国語学習における言語理解のメカニズムの解明に、光トポグラフィを用いた脳機能の測定が有効であると述べられている。

第 7 章「英語は脳のどこで学習されるのか」、第 8 章「英語学習者の最適脳活性状態」、第 9 章「教授法開発で脳活性化」では、6 つの実験により、(1)日本人が英語処理を行う際に最も活性化する部位の推定、(2)日本人英語学習者の最適脳活性状態の推定、(3)課題の提示方法による脳活性化状態の変化の観測が行われている。第 10 章「英語教育における今後の課題」では、本書で得られた知見をもとに、今後の課題が述べられている。日本人英語学習者の英語処理は、学習が積み重なると、意識的処理から無意識的処理へと移行し、上級者では、母語処理に近い状態を示しており、「習得」と「学習」のインタフェイスが確認されている。また、学習者の脳を最適脳活性状態に保ち、インプットを有効にするためには、1)課題の難易度を「i+1」に調整すること、2)スキーマを与えること、の 2 点が提案されている。

2005 年の JACET 新人賞の受賞研究を紹介した本書は、我が JACET 中部の会員の手によるものである。論旨の展開が明快で、用語の解説も分かりやすいため、脳科学に関する専門的な知識がなくとも、英語教育に携わる者であれば誰でもが興味を持って読み進めることができる。3 月 8 日には、中部大学で氏の講演会が行われ、新しい研究も紹介された。氏の 2 冊目の著書の出版が待ち遠しい。

石川有香（名古屋工業大学）

会員フォーラム

The Elvish Languages

大森裕實（愛知県立大学）

Elvishとは何？――「あなたの知らない印欧語族の一言語？」「ザメンホフの発明した Espelanto やイェスペルセンの Novialと並ぶ国際補助言語？」「クリスタルが絶滅の危機に瀕しているという世界の 3,000 語のひとつ？」「今なおファンの多いプレスリーのことば？」等々――さまざまな妄想が頭の中を迷走するかもしれない。しかし実は、これはトールキンが描く神話（elf の世界）

ヤツェク・フィシャク著

英語史概説 第1巻 外面史

小林正成・下内　充・中本明子 訳

英語の歴史を社会的・文化的側面に解説の重点をおき、古代から現代まで概観する、英語史入門書の翻訳。大学の英語史講義用に書かれているが、古い英語の引用には行間に日本語訳を入れるなど、一般読者にも読めるように十分な配慮がしてある。

ISBN4-88359-102-6 四六判 上製 246 頁 定価 2500 円（本体 2381 円+税）

学術図書出版　青山社　TEL 042-765-6460　FAX 042-701-8611　http://www.seizansha.co.jp/

全国の書店からお取り寄せできます。また、FAX での注文、ホームページからの注文も承ります。（24 時間受付 送料無料）

のために発明した一大“language family”の名称である。Quendianという祖語から、Avarin諸語とEldarin共通基語が派生し、このEldarin共通基語からQuenya語（NoldorとVanyarの言語）とTelerin共通語（TeleriとNandorの言語）、さらにはSindarian語（Sindarの言語：Doriathrin語, Falathrin語, North Sindarin語）が派生する。なかなかに複雑で、氏の物語と一緒でなければ十分には頭のなかで整理しきれない。もっとも、幸いなことに、Wikipediaにはこの語族の系図まで紹介されているので、HarrodsのRoyal Blend #49を注いだ午後の紅茶をお供にWebを覗いてみるのも楽しいpastimeのひとコマである。

ところで、Elvishの産みの親トールキン（John Ronald Ruel Tolkien, 1892-1973）は最近ではThe Lord of the Rings三部作の映画化で、世間にその名前が比較的広く知られるようになったが、原語綴りでは、現職英語教員にすら正確には発音されない場合も少なくない。筆者の書架には、DVD3巻セットの横にGrafton paperback edition 3巻（1991）：Vol. 1 The Fellowship of the Ring；Vol. 2 The Two Towers；Vol. 3 The Return of the Kingが並んでいる。この装丁の美しいGrafton版はGeorge Allen & Unwin刊行の1966年版（初版は1954年）の修正版である。Vol. 3の巻末には、Appendixとして物語に登場する各種の地図の他に、Elvishについても解説がある。

それでは、なぜトールキンが言語に対してそれほどまでに綿密な世界を構築するのか。それは、氏が正真正銘の英語学者（philologist）だからである。第二次世界大戦を跨いで、Oxford大学で長く教授職にあったが（1925-59年）、MEの語彙研究やBeowulf研究に優れたものを残した。例えば、現在でも好んで使われるMEのテキストのひとつにK. Sisam (ed.), Fourteenth Century Verse & Prose（Oxford U.P.）があるが、その巻末に附けられた大部のGlossary“A Middle English Vocabulary”は氏が1922年に完成した“小型ME辞典”をそっくり転載したものである。古稀記念論文集English & Medieval Studies（1962）や追悼論文集J.R.R. Tolkien, Scholar and Storyteller（1979）も上梓されているが、最近のものとしてはJ. Chance (ed.)(2003) Tolkien the Medievalist（Routledge）があって、トールキンの多彩な側面を15名の学者が論じており、大そう興味深い。欧米の大学では、功成り名を遂げた人の名前を戴く“冠教授職”というものがstatusが高いのだそうだが、トールキンも例外ではなく、1980年にOxford大学に“J.R.R. Tolkien Professorship of English Literature and Language”が創設された。このようなことはhow to teachには役立たないが、知っていても損にはならないし、what to teachには必要とされる知識の一部であろう。

ご登録はお済でしょうか

会員制サービス【金星堂E-SPACE】をオープンいたしました。
容易な見本請求、各種教授用素材提供など様々なサービスをご用意しております。
今後はよりサービスを充実させてまいります。
是非、小社HPよりご登録ください。
http://www.kinsei-do.co.jp

金星堂
東京都千代田区神田神保町3-21（〒101-0051）
電話 03(3263)3828　FAX 03(3263)0716
E-mail text@kinsei-do.co.jp
URL http://www.kinsei-do.co.jp

‘Go to school’の怪

下内　充（東海学院大学・短大部）

普通には「学校に行く」という意味でとらえているgo to schoolという表現は、「勉強しに行く」という機能的な含意があるためschoolは無冠詞でほぼ熟語的な句として理解されている。

ここで考えてみたいのはこの句のgoの方で、おそらく多くの英語の研究者が気づいているはずであるが辞書などにはその注記がない。

何年か前に実用英語のクラスを教えていたときに次のような文に出会い不思議に思っていた。California

University のキャンパスでの会話ということになっている。(根間弘海／ Braven Smillie 著 *Enjoy Expressing Yourself*(生活会話の英語表現演習)金星堂、1998、p. 7。)

Andy! Hi. I didn't know you were going to California University.

日本人ならこのような場合 goingとは言わないと思う。ここは「来る」ではないかと。

その後、映画のシナリオ(『バック・トゥ・ザ・フューチャー』(*Back to the Future*)スクリーンプレイ出版、1998)を読むクラスで、高校の校長が生徒に言う次の台詞(p.16)に出会った。

Strickland: You're a slacker! You remind me of your father when he went here. He was a slacker, too!

訳文では「たるんでるぞ！君を見てると、ここに通ってたころの君のおやじさんを思い出す。あいつもたるんでおった！」(p.17)となっている。日本人の感覚としては come here でありgo there でないか、went here はないだろう、と思った。同僚のアメリカ人の先生に聞いてみると、これでいいと言い、考えてみるとおかしいな、と付け加えた。

辞書には、go to schoolの項に「通学する、登校する;入学する」(『研究社新英和大辞典』2002)や「通学する、学校に行く;学校に通っている(cf. go to college / go to (the) university)」(『ジーニアス英和大辞典』大修館書店、2001)とある。この中の「通学する」なら go の方向は消えているのでこの用法に近い意味を与えていることになるが、日本人にはちょっと使いこなせないのではないか。もっとも上記の例でも、I didn't know you came to California University. や when he was a student hereと表せないこともないので International Englishという観点では特に問題はない。

先の友人によると、go to church は同様に使えるが、go to market や go to workとなるとどうかなー、という意見である。

CyberSpace

「英字新聞ニュース・アーカイブの利用」

石川有香(名古屋工業大学)

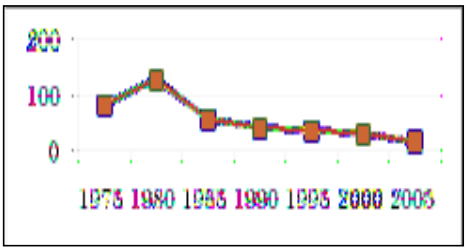
新聞記事の検索作業と言えば、一昔前は、後ろに立って順番待ちをする人を気にかけながら、図書館のデータを使用して行っていた。今では、インターネット経由で、自室から CNN(http://edition.cnn.com/)や Japan Times(http://www.japantimes.co.jp/)、New York Times(http://www.nytimes.com/)のデータベースにアクセスし、お目当てのニュース記事を読むことができる。

Japan Times は、過去 10 年間ほどのスパンでニュース検索を行うことが可能であり、記事自体も無料で読むことができる。一方、NYT は、1851 年から検索をかけることが可能であるが、無料公開している記事は、1981 年以降のものとなる。どちらも、日付の範囲指定が細かくできるため、時系列に沿った検索を行うことも可能で、言葉の研究者にとってはありがたいシステムである。

NYT と言えば、かつて、性差別的求人広告をめぐって、全米女性機構(NOW)や雇用機会均等委員会(EEOC)と最後まで対峙した保守派の新聞として知られている。では、フェミニストが提唱し、すでに一般化した造語は、どのように扱われてきたのだろう。たとえば、chairperson は 1971 年の用例が OED3 に記載されており、1972 年からは、国連でも正式に使用されている。公開されたアーカイブの検索を行ったみた。

Chairperson を用いている記事の数を縦軸に、1970 年から 5 年のスパンを横軸にとってみると、この語の使用が普及した 1975 － 80 年が最も頻度が高くなっている。1981 年以前の記事は第 1 段落のみしか読むことができないが、そこでは、“Is It Possible for a Woman to Manhandle the King's English?” “Madam Chairman”などといった記事が並び、chairpersonという語とフェミニズム言語改革を批判する記事であったことが推測される。現在の記事を見てみると、chairperson を用いて男性へ言及している場合もあるが、chairman の使用と比較すると、2000 分の 1 ほどの記事数となっており、数だけ見ても、どうやら、NYT では、いまだに、

chairperson の使用を避ける編集方針がとられているのではないかと思われる。



ニュース・データ検索サービスは、言葉の研究者にも、新たな可能性を提供してくれそうである。

掲示板

2008 年度中部支部大会のご案内

本年度の支部大会は、中京大学において 6 月 14 日に以下のテーマで行われます。今年は中部支部創立 25 周年を迎え、記念すべき支部大会となります。また、新しい試みとして JALT と共同開催されます。

「テーマ:英語教育におけるシナジー効果を求めて（Toward a Synergistic Collaboration in English Education）」

ぜひご参加ください。

事務局

事務局より

◆全国大会予告

第 47 回（2008 年度）全国大会は、早稲田大学（西早稲田キャンパス）において 9 月 11,12,13 日の日程で以下のテーマで開催されます。

「グローバルな英語コミュニケーション能力とは－英語教育再考－」

会員の方々はぜひご参加ください。

◆役員紹介 / 異動

2008 年度 JACET 支部役員につきましては、中部支部のホームページ http://www.jacet-chubu.org/ をご覧下さい。

◆新入会員の紹介

2007 年 10 月より 2008 年 3 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。（敬称略、入会順）

數見由紀子（金沢大学）、綾野誠紀（三重大学）、Brown, Dale（南山大学）、McKernon, Andrew（愛知きわみ看護短期大学）、中道康晴（名古屋市立神丘中学校）、鈴木稔子（南山学園聖霊中学高等学校）、Viado, Cora（南山短期大学）

◆中部支部のホームページアドレスは、http://www.jacet-chubu.org/ です。 ぜひご覧ください。

◆ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望がありましたら事務局までお知らせください。投稿は電子メールでも随時受け付けております。

中部支部事務局:
名城大学人間学部　岡戸浩子研究室内
TEL:　(052)838-2487（直通）
e-mail: okadoh@ccmfs.meijo-u.ac.jp

JACET-Chubu Newsletter 第 20 号

2008 年 5 月 14 日発行

発行者：大学英語教育学会中部支部
塩澤　正
編集者：
岡戸浩子　片野田浩子　下内　充　佐藤雄大

カット　吉川愛友